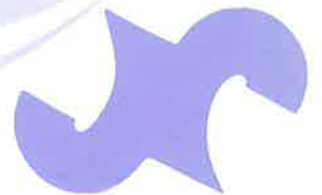
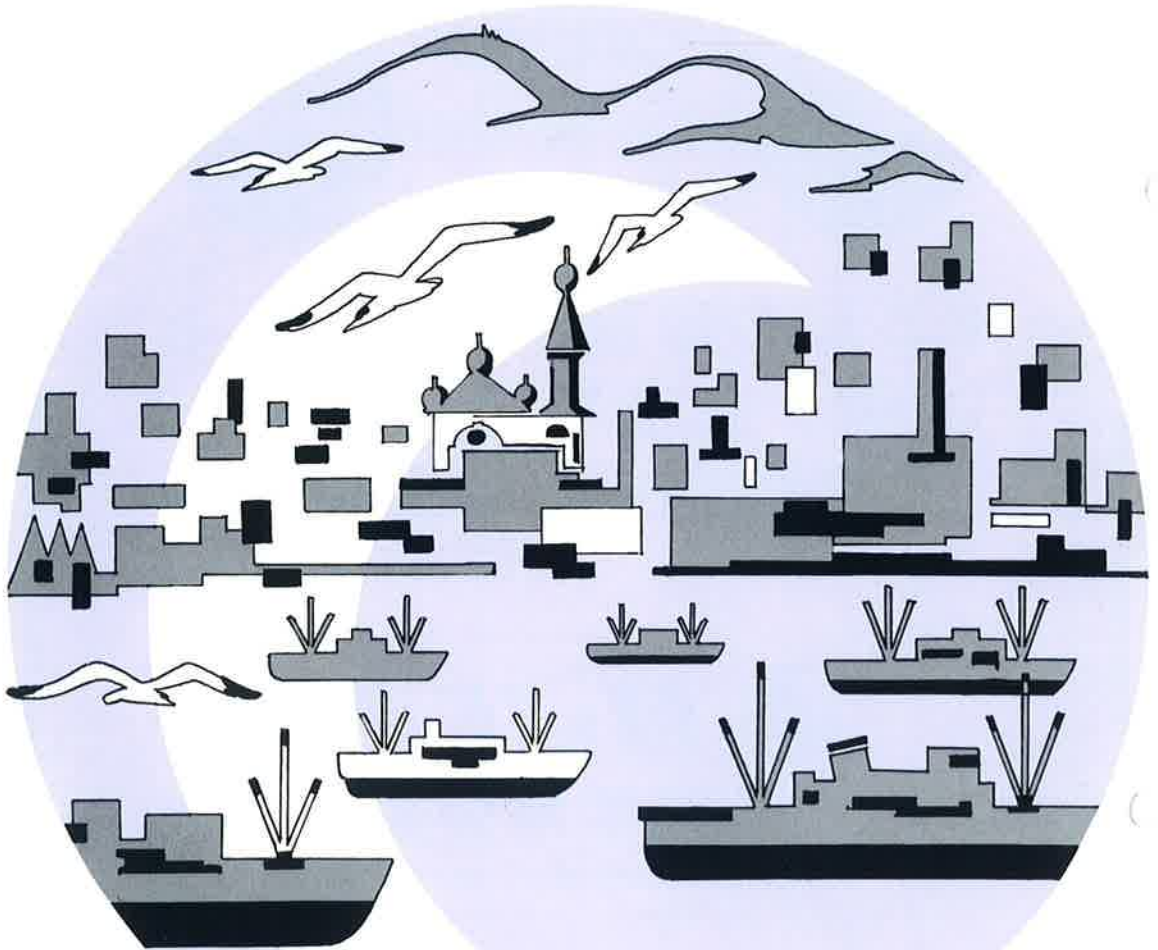


ともしえ

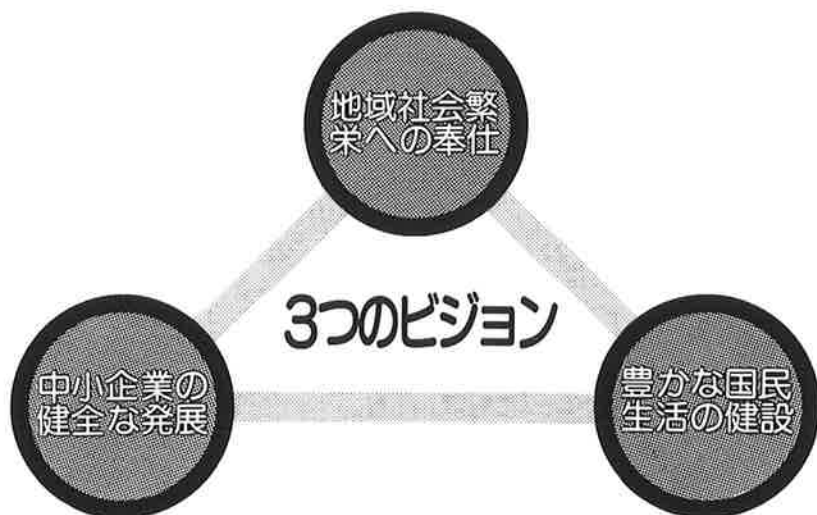
No. 34



■函館商工会議所報■

1983 8月号

企業を育て
地域を伸ばす
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL 22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51-1711(代)
ぼんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町字飯生町30番	TEL 73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52-0511(代)	尻岸内支店	亀田郡尻岸内町字中浜115番の4	TEL 84-2111(代)
弁天町支店	函館市弁天町15番6号	TEL 26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53-5521(代)			

ともえ

1983 8 No.34

巻頭言

NHK大河ドラマ「峠の群像」の作者堺屋太一さんは、今日の世界は「石油文明」から「知恵の文化」へ転換する「峠」の時代である。現在世界の直面している深刻な不況は単なる景気循環の底とか、石油ショックを契機とした需要の減退、あるいはそれによる産業構造の変化に伴う摩擦とかの視点だけでは説明しきれないだろう。本質的には文化史的大転換の谷間に起こった問題と考えるべきだろうと、現在の経済政策に代わるものとして「イベント・ポリシー」を提唱しております。

イベントを起こすことによって経済と文化を発展させる。つまり一時的に需要を創造し文化創造活動を刺激し、長期的には新しい産業文化を進展させる政策であります。

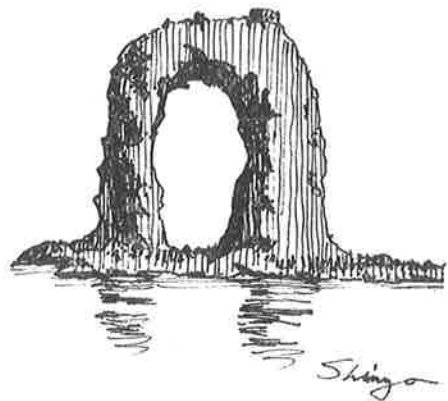
イベントが産業文化に貢献したことは歴史的にも証明が可能であります。世界の万国博覧会は、一、技術の普及、流行の創造 二、財政支出の高い相乗効果 三、記念すべき建造物、交通機関の改革 四、広い職種にわたる需要の喚起等が新しい文化への創造につくして参りました。

今年十月から「大阪築城四百年祭」を皮切りに「大阪二十一世紀計画」がスタートします。この計画は西暦二〇〇〇年まで十八年間にわたり、大阪市の各所でどんどんイベントを展開し、イベントを特定の会場だけでなく、生産と生活の場に持ち出そうと言う画期的なプランであります。

世紀の青函トンネル開通を記念しての津軽海峡大博覧会の具体的計画には直ちに着手すべきであります。

目次

☑ 巻頭言	1
☑ 会議所だより	2~5
☑ 調査レポート	6~11
☑ アドバイスコナー	12~13
☑ 寄稿文	14
☑ 制度紹介	15
☑ ご存じですか	16~17
☑ ご紹介	18
☑ 事務局日誌(7月)・雑感	19
☑ ティータイム	20~21
☑ 告知板	22





会議所 だより

景気浮揚策の推進など決議

第33回全道商工会議所大会

釧路市

第三十三回全道商工会議所大会が、去る七月十三日釧路市文化会館で開かれ、全道各会議所から役員、議員ら約五百人が、また来賓として渡辺前大蔵大臣、古川札幌通産局長ら多数が出席、景気浮揚策の推進などを決議しました。

本所からは、川田会頭はじめ十二人が参加、午前中開かれた開発促進産炭地域振興分科会では、村瀬副会



第33回全道商工会議所大会風景

頭から「テクノポリス建設促進」について北海道唯一の指定調査地域である函館地域に対し、早期実現を見るよう全道の支援体制の確立を図られることを要望する旨提案、堀田常議員からは札幌、釧路と共に「国立函館複合大学設置促進」について「地域経済発展の要素として産、学による研究体制の強化を図るため、是非国立大学設置がのぞまれる旨を提案しました。

一方、運輸観光分科会では、下郡山副会頭から「青函トンネルの有効活用と取付線工事の促進」について「工事そのものは順調に推移しているが、現在の予算措置では完成が予定より遅れる公算が強いため、予算の増額とさらには在来線による同トンネルの有効活用を図られるよう提案、沼崎常議員からは「函館空港及びC・I・Q施設の整備拡充の強化」について「同空港は、近年国際チャーター便の増大と併せ、近々成田空

港の代替空港として指定されることなど、国際化への対応が急がれ、またこのことがテクノ構想に大きな力となることから、是非現滑走路を三メートルまで延長し、これと併行してC（税関）・I（出入国管理）・Q（検査）の施設整備拡充の必要性を説き提案しました。

午後の本大会では、本所からの提案を含めた八案件がすべて可決されました。なお、夕張商工会議所から、「北炭夕張問題について支援を訴える」「地域振興対策」を緊急提案し、万場一致採択可決されました。

続いて永年地域振興に尽された会議所議員並びに永年勤続職員に対し表彰状が贈られた後、渡辺前大蔵大臣が財政再建と題し記念講演を行い「現在国債発行残高は百兆円余にも達し、先ずこれを減らすと共に、毎年発行を歯止めとするための預貯金利子の課税調整や、新税導入等が必要である。今や国民は国家財政危機を十分認識し、財政再建に向け努力と協力の姿勢を示す時期である」と結びました。最後に次回開催地を千歳市と決め閉会しました。



講演中の広中教授

創造性を高めよ

広中平祐教授講演会開く

数学界のノーベル賞といわれている「フィールズ賞」受賞者で世界的数理学者、広中平祐京大、ハーバード大学教授の講演会が函館市、同教育委員会、本商工会議所、市文化団体協議会の主催で八月十一日午後六時から市民会館大ホールで開かれました。演題は「日本人と創造性」

で、この中で同教授は「米国は第二次大戦後世界から人材を集め経済発展を築いた。こんにちの日本人は分解能力ができてきており、論理性も高まってきている。また総合的ベランス感覚にすぐれており、これがこんにちの経済力をつくった。創造性はふだんの訓練の積み重ねと、自分が何かやろうとする目的と一体感をもつ人間によってつくられるものである。自分は何をしたらよいか、あらゆることに関心を持つことが大切であり、これが創造性の教育である」と述べました。

なお、講演会の前日夜、函館国際ホテルで同教授を囲む夕べ（発起人代表は本商工会議所川田会頭）が開かれましたが、市内各界から約百五十余人が、また来賓として横路道知事が出席、席上同知事は「広中セミナーが七飯町大沼で開かれたことは道内の若者に大きな刺激となっ

た。本州に比べ本道は過疎地であり、無限の可能性がある。皆が知恵を出し、努力し、創造して行こう」とあいさつしました。

なお今回の講演会は、前述の通り同教授が主宰する広中教育研究所が七飯町大沼を会場として、全国から選ばれた高校生を含む俊英五十五人

テクノポリス建設促進など

道知事・南道議連に要請

本商工会議所では、豊かな地域社会の創造を目指す二十一世紀を展望した新しい都市づくり「テクノポリス函館」の建設の実現、国立函館複合大学の設置、青函博開催ほか地域経済の振興に係る諸問題について活動を推進しておりますが、去る七月二十一日、川田会頭が出札して道知事室で横路新知事と会談、地域の課題と推進状況を説明した後、次の事項について道の深い理解と協力支援方を要請しました。これに対し同知事は地元の要望は十分理解している。今後とも要望に応えるため努力

を集め、二十一世紀の新しい産業革命を担う人づくりを目的として夏季数理科学セミナーを開いたのを機会に、かねてから国立函館複合大学設置運動を強力に推進している本所などが同教授を招いて開いたもので、極めて有意義な講演会でした。

したいと述べ、会談を終えました。

- (一)テクノポリス建設促進について
- (二)工業技術センターの設置について
- (三)青函博開催について
- (四)国立函館美術館誘致について
- (五)国立函館複合大学の設置について

また同日、国立大学建設促進南北海道議員連盟総会が札幌で開催されましたが、川田会頭、加藤専務理事が出席し、渡島・松山両管内選出の道議会議員に対して、前記の案件についてそれぞれ陳情要望しました。

TQC 導入で業績拡大を

真剣に聴き入る経営者

TQC 研究
セミナー

「昨今の厳しい経済環境を生き抜く新しい経営戦略の手法として、TQC（トータル・クオリティ・コントロールⅡ総合的品質管理）が最近特に注目されていますが、言葉のイメージから製造業関係だけに当てはまる手法と思われがちで、今ひとつ認識されていないのが実状です。」

TQCは、製品に集約されていく各種の業務全般の質を高めなければ、製品そのものの品質も良くなりえないとの発想に立ち、製造現場の品質を徹底して不良品を出さないようにするばかりでなく、営業・企画・開発・総務・経理などのあらゆる非製造部門における業務遂行の質を高めようとするもので、すべての業種に取り入れることの出来る手法なのです。

日本企業の高生産性の原因の一つという評価も高く、最近では建設業やスーパー・飲食業等第三次産業でも盛んに用いられています。

本所では、これからの市場競争に

打ち勝ち、企業の体質改善並びに組織の活性化を図る大きなカギは、TQCの推進にあるとの観点から、函館経営者協会と共催で「TQCを成功させる技法研究セミナー」を去る七月二十七日、本所会議室で開催しました。

当日は、中小企業診断士であり、(株)ロイヤル・ビジネスコンサルタント代表取締役の山下貞夫氏を講師に招き、TQCを導入し成功させるポイントについて製造業から流通業、サービス業等の豊富な事例をおりませ講話頂きました。

この中で同氏はTQCを成功させる条件として次の点を強調されました。

▲経営者の役割▼

- ① 経営の最高責任・実力者の熱意とリーダーシップが決め手
- ② TQC活動の導入方針の明確化
- ③ 仕事の責任体制・体系の確立
- ④ 人間尊重の経営姿勢により、自

主的で全員参加の活動体制がとれる組織風土をつくる

▲部課長の役割▼

① 組織的役割を十分認識して、縦横の連絡を徹底する

② 効果的な職場システムづくりをする。そのためにはQCサークル（小集団）を育てる

③ 目標と方針を明確にして、仕事の方向づけをする

④ 部下の意欲づけをし、自主性を引き出す

▲TQC活動の展開とQCサークル導入の仕方▼

① QCを中心にして、企業体質の改善及び経営管理の充実を図るために、各部門にQCサークルを一斉に導入し、トップからの方針を末端まで展開して、それぞれの職場の問題を解決する

② まず、QCサークルから導入して、職場の身近な問題を解決させ、遂次TQC活動へ幅を広げていく

当日の出席者は製造・建設・商業・サービス業と多岐にわたっておりましたが、いずれもTQCの導入により業績拡大を図ろうと真剣そのものでした。

菓子業界のパイオニアよりおいしく、より豊かに

菓子食品問屋
株式会社 **カネマル**

■本社／函館市西桔梗町589-46
■支店／札幌・苫小牧 青森

生物化学産業は道南に適す

「函館市への提言」経済講演会開く

二十一世紀における函館地域の振興は「テクノポリス建設構想」の実現にあるとの考えから、本所では国の最終本指定を受けるべくかねてから強力な運動を展開してまいります。八月九日本所主催により東邦生命社長太田新太郎氏を講師に招き「函館市への提言」と題する経済講演会を本所会議室で開きました。

同氏は「テクノポリス函館」の実



「生物化学は道南に適した産業」と語る太田社長

現について次のように提言、会場を埋めた聴講者は真剣に聞き入っていました。

最近、日本企業の企業利益順位のトップクラスは、従来の基幹産業であった鉄鋼、石油化学等の重化学工業からエレクトロニクス、コンピュータ、ロボットなどの先端技術産業群に変化している。

また、立地条件も、かつての鉄鋼、造船、石油化学等は、原材料と製品の輸出入のために海の「クミナトク」が必要だったが、LSIのような高付加価値製品は空の「クミナトク」のほうが輸送に適している。このようにかつての臨海工業地帯にかわって、今では臨空工業地帯へと変化しており、空港のある当函館市はこれらの条件に適している。

是非、実現していただきたい産業に、将来の産業と言われているバイオテクノロジー（生命工学または遺伝子産業）の研究所、実験場、工場等

を積極的に誘致していただきたい。

この産業は、本州のような人口過密地帯には適しない産業であり、また本州の臨空工業地帯でも、現在ただの「カ所」も誘致に名のりを上げていない。

このため広大な土地ときれいな空気のある函館地区に適した産業であり、早めに地元民の意志統一をはかり企業誘致推進を進めていただきたい。

東京青果市場では北海道と長野産の野菜が高値で取引されている。その理由は、昼と夜の気候温度差が大きい程、野菜の実りが良く、また甘味が加味されるためである。このため主なものは、飛行機で輸送しても十分に採算が合う。また、日本のある学者は、農業は先進国型産業であり、大規模農業を行える地区は、北海道だけしかなく、この点からの函館地区は有望である。

最後に教育問題にふれ、戦後GHQにより儒教精神が否定された。しかし愛社精神だけが現在まで残り、今日の日本経済発展の源となった。

今後とも、家庭、学校、職場で儒教精神の教育が必要である。

日本の味



日乃出

スーパー・食料品店で求めください。

油あげ・こんにゃく・しらたき
栄養とうふ・凍とうふ・製造卸

日乃出食品株式会社

函館市富岡町3丁目32番31号
☎42-0445(代)

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は
-0.013%と引き続き低下。

なお、4～6月通計でみると、実質預金は法人流動性預金の大幅減少を主因に期中増加額は24億円と前年（同68億円）を6割強下回った。一方、貸出は企業需資が落着き気味に推移する中で季節資金の回収が増嵩したものの地方公共団体からの回収が前年を下回ったため、ほぼ前年並みの減少

（期中168億円減、前年同178億円減）。

○銀行券は、月初に前年をかなり上回る増発をみたことから、月中では33億円の発行超と前年（同29億円）を若干上回った。

○財政収支をみると、簡保貸付の回収が前年を下回ったものの、公共事業関係費の支払減、租税の受超増などから、月中払超額は34億円と前年（同49億円）を下回った。

以 上

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高（10店） 昭和58年7月

品 目	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	2,750,906	121.2	92.2
身 回 品	495,671	106.2	86.6
雑 貨	1,027,109	139.0	109.4
家 庭 用 品	669,244	110.0	94.8
食 料 品	1,876,785	119.3	107.3
食 堂 ・ 喫 茶	203,729	116.6	101.8
サ ー ビ ス	60,021	116.8	106.5
そ の 他	189,822	92.3	81.7
総 額	7,273,287	119.5	97.7

※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テオー小笠原、長崎屋、イトヨーカ堂、函館西武、ホリタショッピングプラザ湯の川店の各店をいう。テオー小笠原については食料品を扱っていない。



6月

昭和58年7月26日発表

金融経済概況

日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、生コン、肥料などでは季節需要等に支えられ高水準の生産を続けているが、造船、合板機械は海外新規受注が依然不振、また、珍味加工も荷動きが低調であるほか、個人消費も夏物衣料品、冷蔵庫等季節商品の売れ行きが鈍いなど、全体としては盛り上がりを欠く状態が続いている。

一方、金融面では水産関連の季節資金等が、幾分増加したが全体の企業需資は引き続き鎮静している。

2. 産業界

○实体经济の動向を主要産業別にみると、生コンは青函トンネル取付線や漁港関係向けを中心に生産、出荷とも増加。また、漁網はイカ流し網の受注増や秋サケ用定置網の先行生産等から高操業を続けているほか、肥料も流通段階の早期引き取り需要に備え高水準の生産を続行。セメントも海外向けスポット受注から6・7月とフル操業となっている。ダンボール箱は前年並みの生産水準を維持しているが、天候不順から青果物ケースの出荷が例年に比べ遅れ気味となっている。合板機械、製缶機械では既受注残消化のため高目の操業を続けているが、新規受

注はこのところやや伸び悩んでいる。造船は新造船の受注環境が依然厳しく操業度は引き続き低下している。珍味加工は、夏場行楽需要が冷夏の影響もあって盛り上がり欠け、生産出荷は前年水準を下回っている。

○一次産業面をみると、農作物の7月央における生育状況は6月の天候不順が響き水稲、牧草等が遅れ気味となっている。一方、近海マイカ漁は出足順調で、6月中の水揚げは数量、金額とも前年を3割方上回った模様。

○個人消費面をみると、大型小売店では中元贈答品は食料品を中心に順調な出足をみせているものの、主力の衣料品が異常低温から落ち込みをみているほか、装飾品等身回り品も伸び悩んでいる。因みに、6月中の大型小売店売上高(10か店)は前年比△2.9%と57/11月以来7か月振りに前年水準を下回った。耐久消費財では、乗用車新車登録台数(6月中)が新車検制度施行(7/1)前の買控えという特殊要因から前年を下回り(前年比△7.4%)、家電製品は季節商品の荷動きが盛り上がり欠け増勢はかなり鈍化。

3. 金融事情(6月中)

○管内金融機関の実質預金は、一般預金が法人流動性預金の積み上がりやボーナス預金の吸収等からほぼ前年並みの増加を示したものの、公金預金が前月末滞留の大型工事関係支払資金の剥落等から大幅減少をみたため、月中増加額は53億円と前年(同152億円)を大きく下回った。

一方、貸出は水産関連の原魚買付け需資が幾分増加したほか、石油卸、自動車ディーラー等の運転資金需要もあって月中53億円の増加(前年同28億円)。

で消費需要等の増加による景気回復に期待する向きが多いが、現実には企業の見方は慎重であり、かつ厳しいものがある。

2. 売上額について

来期の売上見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業24.6%に対し、「横ばい」企業46.1%、「減少」するとみる企業29.3%でD I Δ 4.7となっているが、ほぼ今期並みに推移される。

これを前年同期と比べてみると、「増加」企業19.4%に対し、「横ばい」企業46.9%、「減少」企業33.7%でD I が Δ 14.3となっており、前年より売上の減少を予想する企業が多い。

次に、来期の売上見通しを業種別でみると、建設業では、今期比D I Δ 16.7、前年同期比 Δ 37.9となっており、本格的な需要期入りにもかかわらず大幅な減少を予想している。

製造業では、今期比D I が Δ 2.7と若干マイナスを示しているもののほぼ今期並みを予想している。しかし、前年同期に比べると、D I Δ 20.8と減収基調を予想している。特に、窯業・土石製品業、造船業が大幅な減収を予想している。

卸売業では、今期比D I Δ 4.9となっており若干減収を予想している。また、前年同期と比べてみると、D I が Δ 20.6で大幅な減収を予想している。

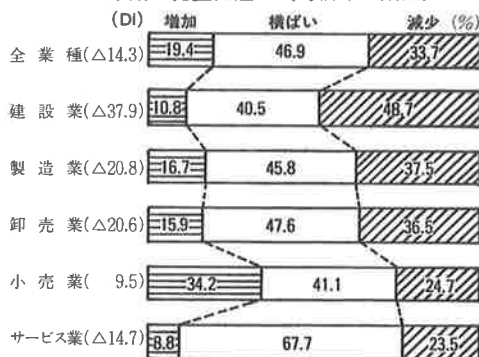
小売業では、今期比D I Δ 1.3と今期並みを予想している。また、前年同期比でみると、D I が9.5となっており増収基調で推移される見通しである。しかし、業種でみると衣服・身の回り品業が今期比、前年同期比ともD I が大幅なマイナスを示し業績悪化が続

くものと思われる。

サービス業では、今期比D I Δ 2.8と若干マイナスを示しているが今期並みに推移される。

しかし、前年同期比でみると、D I Δ 14.7で減収を予想している。これを業種でみると、洗たく・理美容関係、娯楽業は増収を予想しているが、旅館業や車両整備業は減収基調で推移される。

図一六 来期の売上見通し（対前年同期比）



3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、今期に比べ「好転」するとみる企業7.8%に対し、「悪化」するとみる企業19.5%でD I Δ 11.7と悪化を予想しているが、「変わらない」とみる企業が72.7%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。これを業種別でみると、建設業D I Δ 25.7、サービス業D I Δ 17.1で悪化を予想しており、製造業D I Δ 9.5、卸売業D I Δ 14.7、小売業D I Δ 2.6とマイナスを示しているが「変わらない」とする企業が70%以上あり、ほぼ今期並みに推移される。

おいしさはまごころ

パンと
洋菓子



リスドール 精養軒

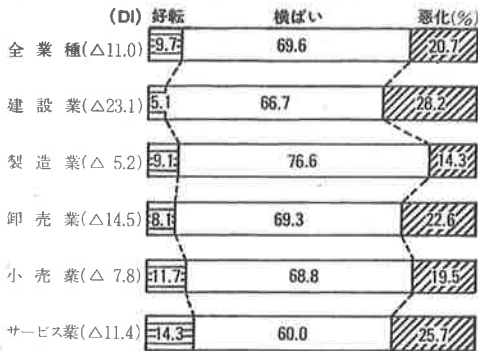
本店 / 元町29-14 ☎ 22-2177(代) 亀田工場 / 昭和2-40 ☎ 42-1191(代)

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業9.7%に対し、「悪化」した企業20.7%でD I △11.0となっており、悪化基調に変わらないが、「変わらない」とする企業が69.6%であり前期並みに推移した。

業種別にみると、建設業がD I △23.1で前期に引き続き悪化しており、卸売業においてもD I △14.5と悪化基調にある。

図一 4 今期の資金繰り (対前期比)



5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売上・受注の不振」をあげる企業が多く、全業種で44.3%を占め前期より若干減少している。この「売上・受注の不振」を業種別にみると、建設業56.3%、製造業40.3%、卸売業45.2%、小売業48.0%、サービス業28.1%となっており、小売業が前期に比べ12%増加している。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「工事価格の値下り」17.9%、製造業は「製品安」17.6%、「人件費等経費の増加」10.8

%、小売業は「純利益の減少」13.3%、サービス業は「同業者の競合」28.1%、「客足の減少」25.1%をあげている。

来期(7月~9月)の見通し

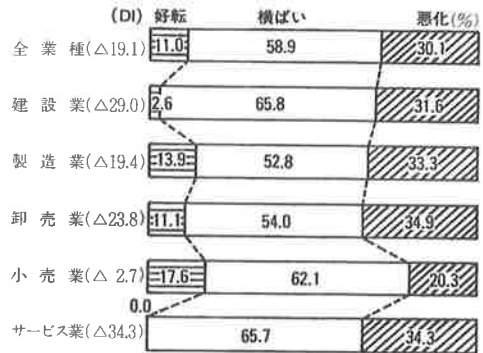
1. 業況について

函館地域の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」するとみる企業17.1%に対し、「横ばい」企業58.1%、「悪化」するとみる企業24.8%でD I △7.7、また、前年同期に比べると、「好転」企業11.0%に対し「悪化」企業30.1%でD I が△19.1を示し悪化基調で推移される。

これを業種別にみると、今期比ではD I が建設業△16.2、製造業1.3、卸売業△14.2、小売業1.3、サービス業△26.5で製造業、小売業が今期並みを予想し、他は悪化基調を予想している。また、前年同期比では、すべての業種でD I がマイナスを示し、特に建設業△29.0卸売業△23.8、サービス業△34.3において大幅な悪化を予想している。

このように、来期業況は公共事業前倒し執行の効果浸透や、本格的な夏場シーズン入り

図一 5 来期の業況見通し (対前年同期比)



愛と健康はヨークの願い

ヨーク(YOKE)とは英語で絆(きずな)の事です

道南ヨーク株式会社

北海道函館市湯浜町12番14号 TEL55-2171

また、今期の売上額を前年同期と比べてみると、全業種では「増加」企業26.4%に対し、「横ばい」企業39.1%、「減少」企業34.5%でD Iが△8.1となっている。

業種では、卸売業、小売業が前年並みに推移し、他の業種はD Iがマイナスを示しており、特に建設業、サービス業が悪化している。

次に、売上額を業種別にみると

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比でD I △24.4、前年同期比でD I △25.7となっており、冬場の不需要期を脱したにもかかわらず業績悪化が続いている。

これは、地方選挙、参議員選挙等により公共事業の前倒し発注が前年を下回っており、さらに民需の停滞による過当競争、工事価格の値下りの影響を受け悪化が顕在化した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比D I 13.2、前年同期比D I △8.0となっており、季節的要因により、前期比でD Iがプラスを示しているが、前年に比べると依然として低迷状態が続いている。しかし、業種によってバラツキをみせており、飲食料品業（水産加工業を除く）、木材・木製品業、金属製品業では、前期比、前年同期比ともD Iがプラスを示し業績が好転している。反面、悪化しているのは、窯業・土石製品業、一般機械器具業、造船業であり他の業種は前期比でD Iがプラスを示しているが、前年同期比で横ばい状態となっている。

【卸売業】

今期の売上額は、季節的要因により前期比でD I 17.5となっており、前年同期比ではD Iが1.6を示し前年並みに推移した。

業種でみると、前期比では織物・衣服・身の回り品業、燃料業で悪化しており、建築材料業は前期並みであるが、他の業種は好転基調で推移した。また、前年同期比では、食料品業、織物・衣服・身の回り品業が前年より業績は好転している。しかし、これ以外の業種はD Iがマイナスを示している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I △5.1、前年

同期比でD Iがゼロを示し依然として停滞基調が続いている。

業種でみると、各種商品販売業、自動車販売業では前期比、前年同期比ともD Iがプラスを示し業績は好転基調で推移した。反面、衣服・身の回り品販売業は天候不順により前期比、前年同期比ともD Iのマイナス幅を拡大し業績が悪化している。

【サービス業】

今期の売上額は、前期比D I △25.8、前年同期比D I △25.0で冬場の不需要期を脱したにもかかわらず、天候不順により業績は悪化している。

業種でみると、すべての業種が前期比、前年同期比ともD Iがマイナスを示し、特に、旅館業や娯楽業で大きく落ち込んでいる。

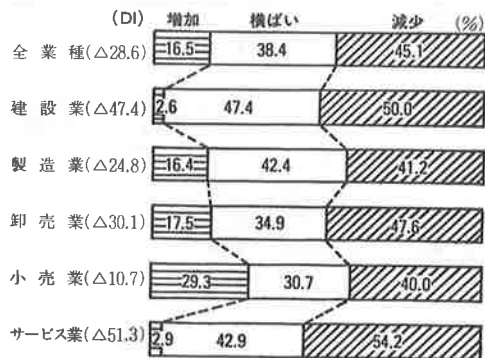
3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業16.7%に対し、「横ばい」企業41.1%、「減少」している企業42.2%でD Iが△25.5、前年同期比でも「減少」企業45.1%が「増加」企業16.5%を上回っておりD Iが△28.6となっている。

このように、純利益は売上不振の影響が大きくあらわれ、さらに、今期はベースアップによって人件費が上昇したためマイナス幅を拡大し悪化度合を深めている。

業種別でみると、各業種とも悪化しているなかで、製造業の飲食料品関係（水産加工業を除く）、卸売業の飲食料品関係、小売業の自動車販売が前期比、前年同期比ともD Iがプラスを示している。

図一 3 今期の純利益（対前年同期比）



経済の窓

景気動向調査

昭和58年度 第1・四半期

昭和58年度第1・四半期（昭和58年4月～6月）の函館における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

なお、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	309社	78.2%
建設業	50	40	80.0
製造業	100	79	79.0
卸売業	80	66	82.5
小売業	120	88	73.3
サービス業	45	36	80.0

（注）本調査結果の中でD Iとある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差引いた値を示しています。

今期（4月～6月）の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況は、前期に比べ「好転」している企業26.0%に対し、「横ばい」企業43.1%、「悪化」している企業30.9%でD Iが△4.9と若干マイナスを示している。

これを業種でみると、製造業がD I 10.5と季節的要因により好転しているが、建設業D I △33.3、サービス業D I △22.9と悪化基調で推移し、卸売業、小売業はD I がそれぞれ0、△1.3を示し前期並みとなっている。

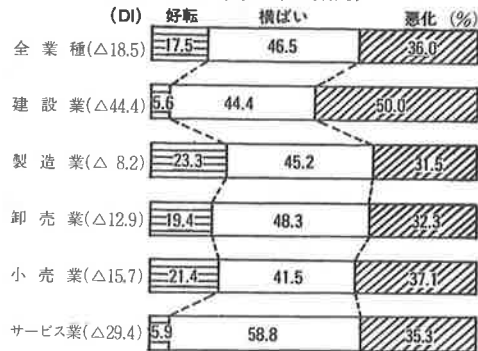
また、今期の業況を前年同期比でみると、「好転」企業17.5%に対し、「横ばい」企業46.5%、「悪化」企業36.0%でD I △18.5となっており、前年より悪化している。

業種別でみると、すべての業種でD I がマ

イナスを示し、特に建設業（D I △44.4）、サービス業（D I △29.4）が悪化基調で推移した。

このように、今期の業況は冬場の不需要期を脱したにもかかわらず、住宅投資、設備投資が依然として低迷しており、個人消費も実質所得の減少に加え、天候不順により伸び悩みをみせ、さらに期待された公共事業の前倒し発注による効果も、地方選挙、参議員選挙等によって発注の出足が遅れ、期待したほどの効果が出ていないこともあって、回復の兆しを見せないまま低迷状況が続けている。

図一 今期の業況（対前年同期比）

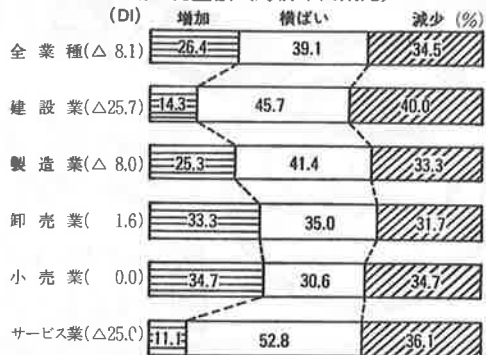


2. 売上額（生産・工事完成額）の状況

今期の売上額の状況を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業33.7%に対し、「横ばい」企業32.3%、「減少」している企業34.0%でD I △0.3となっている。

今期は、前期が冬場の不需要期であったことから、売上が前期に比べ増加基調にあるのは当然でなければならないが、製造業、卸売業以外は伸び悩み、特に、建設業、サービス業で業績が悪化している。

図二 今期の売上額（対前年同期比）



ヒントぴんと

榮 繁

あなたに必要な ことはより教養 ある女性に脱皮 することです

第一に、相手の立場に立って物を考えることのできる女性です。

私は、学問のある女性よりも、教養のある女性に大きな魅力を感じます。もちろん、学問があるにこしたことはないのですが、私はこれまで、学識のある立派な方と思われている人につきあって、思いがけなくその人が自己中心で、性急で、相手のことなどまったく考えてもみない人であることがわかって愕然とした

ことが幾度かあります。自分さえよければよいと考える人とのつきあいほど、こちらを疲れさせ、いらだたせるものはないのです。

それに反して、たとえ立派な学歴はなくても、他人のことを思いやり、己れの如く汝の隣人を愛する。ことのできる人であるならば、その人こそ真に教養ある本物の女性（人間）と言えるのです。

第二に、自分の考えて物が言える女性です。

アンドレ・モーロワさんは「一日に新刊書を五冊読むよりは、真に理解しながら一冊の本を一週間かかっ



て読むほうがはるかに教養ある女性である」と言っています。本を読むというそのことが教養ではなく、本をどう読むかということが大切です。あなたのように妻、母親、子供の教育者、従業員、経営者、管理者として一人六役七役も働かなければならないあなたにとって読書することも大変なことのひとつです。しかし忙中閑を見出しながら、何を、どのように読んで、あなた自身の心の糧とならせることができるかということもまた大切なことです。

もしもあなたが、その吸収した知識を十分に発酵させ、商売という実践の場を通して生かすことができ、それを自分の言葉で表現することができるならば、あなたは本当の意味での教養ある女性ということができ

珍味一筋50余年



珍味のかくまん

●お求めは、有名スーパー・生協・酒販売店でどうぞ！

■角萬長浜谷商店 本社/函館市入舟町10番15号 ☎23-3281